

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第740号（令和七年十月号）

- ・表紙：「秋の風」
- ・来月号（十一月号）の兼題



＜季語：秋風（三秋・天文）：子季語：秋の風、金風、白風、爽籟、風爽か＞

- ・秋になって吹く風。立秋のころ吹く秋風は秋の訪れを知らせる風である。秋の進行とともに風の吹き方も変化し、初秋には残暑をともなって吹き、しだいに爽やかになり、晩秋には冷気をともなって蕭条と吹く。秋が五行説の金行にあたるので「金風」、また、秋の色が白にあたるので「白風」ともいう

「有名俳人の句」

- | | | |
|----------------|------|------|
| ・物言へば唇寒し秋の風 | 松尾芭蕉 | |
| ・石山の石より白し秋の風 | | 松尾芭蕉 |
| ・秋風にちるや卒塔婆の匏屑 | | 与謝蕪村 |
| ・秋風やむしりたがりし赤い花 | | 小林一茶 |
| ・秋風や眼中のもの皆俳句 | | 高浜虚子 |

- | | |
|------------------|-------|
| ・来てみれば長谷は秋風ばかりなり | 夏目漱石 |
| ・秋風や甲羅をあます膳の蟹 | 芥川龍之介 |
| ・秋風や模様のちがふ皿二つ | 原 石鼎 |
| ・ラヂオつと消され秋風残りけり | 星野立子 |
| ・横町に横町のあり秋の風 | 渋谷秀雄 |
| ・秋風や水より淡き魚のひれ | 三橋鷹女 |
| ・でで虫が桑で吹かるる秋の風 | 細見綾子 |

☆高得点者および高得点句

＊前月の清記表に記載された8名の39句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者（敬称略）>

21点 温州、15点 穂心、12点 善富、9点 要

<高得点句（4点以上）>

- ・短冊に絵文字横文字星祭り／温州・・・・・・・・・・9点
- ・御巢鷹の記憶坂本九の歌／穂心・・・・・・・・・・7点
- ・盆踊り少し遅れて手足出す／温州・・・・・・・・・・6点
- ・茄子の紺箆いっぱい溢れけり／善富・・・・・・・・・・5点
- ・一口が五臓にしみるかき氷／要・・・・・・・・・・5点
- ・平和へのノイズは消えず敗戦忌／穂心・・・・・・・・・・5点
- ・名店の味に並びし秋日傘／甲舟・・・・・・・・・・4点

☆その他のトピックス

① 今月号の清記

◎今月は10名の方が合計40句を出句されました。

② 近況報告

◎勝さん、碧亥さん、善富さん、要さんから近況報告を頂きました。

③ 要さん俳句大会で特選獲得

◎松山市子規顕彰俳句大会で要さんの次の句が特選に選ばれたそうです。

要さんおめでとうございます。

「豆飯や二人で稼ぐ散髪屋」

④ 勝さんより「芦火」創刊当時のことをネット検索して次の様に認めて頂きました。 非常に興味深い内容になっています。

芦火創刊のころのこと 山下 勝

「芦火」は昭和38年発足と奈良爽哥亭氏が句集のあとがきで述べておられる。第1句集は昭和43年刊行とあります。また、芦火は柑芦会の分身としての発足の認識です。昭和47年10月に第2句集を上梓されたとあります。第2句集から現在まで句集は和太図書館に保管されています。残念ながら、第1句集はみつかりませんが、しかし、昭和38年11月に、発足時の『第2回の通信俳句』の記録が残っています。（これは、西田安男さんが、杉浦水棹さんから拝借されたもので、和太図書館にコピーがあります。第2回から第13回までコピーされています）

それによりますと、投稿者5名（通信投句）の記録があり、5名の方の投句を（投句数不明）、各自10句程度選句されているようです。

その時の「芦火」の俳句の先生として、後藤夜半氏に行き受けていただき、後藤夜半先生の選句を冒頭に記載されている。

後藤夜半（ごとうやはん）は明治28年生まれ、ホトトギス同人として高浜虚子に師事する。1931年「蘆火」創刊とある。1934年には病気のため「蘆火」終刊されている。我が「芦火」は昭和38年発足とあり、後藤夜半氏に師事していることから「蘆火」⇒「芦火」と命名されたのではないかと想像できる。

後藤夜半氏は1948年「花鳥集」を創刊し、1953年に「花鳥集」を「諷詠」に改題され、現在まで続いている。それは、長男の後藤火奈夫に受け継がれ、現在、後藤夜半の孫の和田華凜に引き継がれている。

今年4月から日曜日第3週のNHK 俳句は和田華凜が選者となり、活躍中である。

後藤夜半の句に「瀧の上に水現れて落ちにけり」という有名な句がある。これは箕面の滝を詠んだとされている。

また、「底紅の咲く隣にもまんむすめ」の句があるが、この句は1954年の「ホトトギス」の巻頭句となり、「底紅」が季語としても定着したといわれている。

⑤ 「京滋支部総会に参加しました」（温州）

- ・京滋支部総会の概要を以下の通り報告させて頂きました。

9月6日（土）に神戸支部を代表して京滋支部総会に参加しました。総会は昨年と同じ四条烏丸駅近くのウイングス京都（京都市男女共同参画センター）で、懇親会も昨年と同じ四条大橋西詰の中華料理店・東華菜館にて開催されました。

参加者のうち、来賓は大学側から足立副学長、金川経済学部長、柑芦会本部から垣見会長、他支部からは和歌山、大阪、神戸各支部の支部長、副支部長の合計6名、支部会員は大学11期から大学50期迄の11名の参加でした。

支部総会は宮下幹事長（大学46期）の司会で進められ、冒頭の清水支部長（大学31期）のごあいさつの後、垣見柑芦会会長のご挨拶があり、引き続き来賓6名のご紹介をして頂きました。

続いて、令和6年度事業報告及び会計報告、会計監査報告がありいずれも異議無く承認されました。

そののち、清水支部長よりプロジェクターを使って、この度、マシン「YATA」によるオーストラリア大陸縦断3000kmに挑戦した和歌山大学ソーラーカープロジェクトの奮闘状況および今や和歌山大学の課外活動を代表する活躍ぶりを発揮されている和歌山大学硬式野球部の活動状況がそれぞれ詳しく紹介されました。

支部総会終了後は徒歩にて懇親会会場（中華料理店・東華菜館）へ移動ですが、照りつける日差しを避けるために、四条烏丸駅界隈から会場までは地下通路を利用しました。

懇親会会場の東華菜館は100年の歴史を持つ老舗中華料理店ですが、鴨川にせり出した納涼床での頂く食事は風情があり何とも言えないものでした。

会食の合間を縫って参加者から様々なお話を伺うことが出来ました。足立和歌山大学副学長からは前日（9月5日（金））にグラングリーン大阪で開催された「地域再生甲子園2025」の模様をご披露頂きました。日経新聞他が主催されたこのフォーラムでは足立先生が全体のファシリテーターを務められ、基調講演の司会は川田裕美さんがされたそうです。和歌山大学関係者がフォーラムの中心におられたことは和大大OBの一人としてしても大変誇らしく思ったところです。

金川経済学部長からはおススメの図書として埼玉大学名誉教授で経済学者の暉峻淑

子（てるおか いつこ）先生（1928年生・97歳）の近著「承認をひらく」をご紹介します。暉峻先生は1991年に「豊かさとは何か」で経済学博士の学位を取られたそうですが、「承認をひらく」では、真の民主主義社会を実現するためには「相互承認」と「社会参加」が重要であると説かれているそうです。
ご興味のあるかたは書物を購入しては如何でしょうか。

以上



<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の10名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）